

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
(県知事賞 優秀賞)
「命を守るためにできること」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 2年 小山 勝利こやま かつとし

日本は世界でも、土砂災害の多い国だと言われている。発生件数は、年によってばらつきがあるが、少しずつ増えている。もし、土砂災害が自分の周りで起こってもしっかりと対処できるように、土砂災害について知ることが大切だと思った。そのため、僕は土砂災害について調べてみることにした。

まず、日本が土砂災害が発生しやすい理由についてだ。日本は、雨や地震が他の国と比べて多いことが土砂災害の多い原因とされている。雨による洪水、地震によるがけ崩れや地滑りなどが起こり、土砂災害が起こるそうだ。

実際に起きた土砂災害を調べてみた。2014年8月に広島を襲った突然の豪雨。わずか3時間で1ヶ月分の大雨が降り、市内166か所で土石流やがけ崩れが発生し、多くの人が逃げる間もなく被害にあい、77人が犠牲になった。その原因となったのは雨雲が急激に発達してできる線状降水帯だった。線状降水帯とは、下層の暖かく湿った風が地形や前線の影響などで上昇し積乱雲が発生、上空の風に流されることで列をなすように積乱雲が次々に発生し、線上にのびた雨域のことだそうだ。また、山の手もとに多くの方が住んでいることや、時間帯が深夜だったことが大きな被害に繋がってしまったそうだ。深夜だと、避難するか、家にいるかの判断が難しいそうだ。このことから、自分がどんな場所に住んでいるかを知り、土砂災害が起きた時の想像をしてスムーズに避難できるようにすることが大切だとこの実例を調べて深く感じた。また、避難訓練などを行って、土砂災害に備えておくことも大切だと思った。

小学2年生の頃、僕が住んでいる喜界島でも50年に1度の雨が降ったことがあった。僕の家近くの道路は水で溢れて川ようになっていた。島内の複数箇所土砂崩れが起き、たくさんの場所が通行止めになっていた。給食を食べていると先生が

「急いで帰りの準備をしてください。」

と言われ、急いで帰る準備をしたことを今でも覚えている。大雨の中、学校に通じる道路は子供たちを迎えに来る親の車で渋滞が起きていた。この大雨の反省から、小学校では災害に備えて子どもの引き渡し訓練を行うようになった。毎年梅雨に入る前に行われている。何度も行ううちに改善するところを話し合っているとのことだった。

このことから、災害時に備えて避難訓練を繰り返し行うことが大切だと分かる。各学校や高齢者施設などでの避難訓練はもちろんのこと、自分たちの住む地域での避難訓練も必要だと思う。同時に各家庭で災害が起きた時のことを想定してどこに避難するのか、何をもっていくのか常日頃から話しておくことも大事だと思う。

数年前、夜中に津波警報が出たことがあった。その時は親が家族全員を起こして、みんなで車に乗り高台へ避難した。高台には島中の方が車で避難していた。寒い中、暗い道端に車を停めてひたすら警報が解除されるのを待った。僕たち家族は認知症の祖母と同居していたため、頻りにトイレに行きたがる祖母のために、高台の道を走り、トイレのあるところを探したり、じっとその場に停車していると移動するように言われて、あてもなく山の方向に車を走らせた。もしも災害にあい避難することになった時のことは想像するだけで恐ろしい。祖母のように認知症になってしまった人と一緒に避難する時のこともしっかりと考えていかなければならない。

命を守るために大切なことは、まず過去に起きた災害について知ることだと思う。そして、日頃から災害に備えておくことが大切だ。また、線状降水帯ができやすくなっている今の異常気象も土砂災害が起こる原因だ。この異常気象を改善するために、地球環境を良くしていく取り組みをするべきだ。そして、この災害を他人事だと思わず、一人一人が常日頃から意識することが重要だ。土砂災害が起きても、犠牲者が一人も出ないようにすることを願っている。